

# ATRV アトルブ

NO. 4

2025 年  
6 月 30 日  
特定非営利活動法人  
多摩都市構想研究会  
代表 櫻井 巖  
発刊

## 2025年度総会報告

### 多摩都市構想研究会

会長 櫻井 巖



新緑の候、会員の皆様にはますますご清  
祥のこととお慶び申し上げます。

平素より多摩都市構想研究会の活動にご  
理解とご支援を賜り心より御礼申し上げま  
す。

令和7年度総会を5月22日に立川中央  
病院の会議室をお借りし滞りなく開催いた  
しました。

総会では、昨年度の事業報告・決算、な  
らびに本年度の事業計画・予算案を承認い  
ただきました。改めて深く感謝申し上げま  
す。

ようやくコロナ禍の危機的状況を脱し、  
社会・経済活動が平常化するなか、当会と  
しても、これまで制約されていた活動のさ  
らなる活性化に取り組んでまいります。

当会は、本年度で設立から10年の節目  
を迎えました。これまで、多摩地域の持続  
的発展をめざし、交通、産業、自然環境な  
どの諸課題について調査・研究を重ねてま  
いりました。とりわけ、地域の将来像を描

く上で、交通システムの充実、産業の振興、  
そして自然環境の保全が極めて重要である  
ことを、あらためて確認しております。

本年度は、「西多摩地域を応援しよう」  
をテーマに、西多摩地域展（仮称）やシン  
ポジウムの開催、さらに宇都宮市の交通シ  
ステムの視察など、実践的な取り組みを計  
画しています。

今後はこれまでの調査研究の蓄積を土台  
にしつつ、より多様な視点と新たな発想を  
取り入れるため、若手会員の参加を促進し、  
組織の一層の強化に努めてまいります。会  
員の皆様におかれましては、引き続きのご  
理解とご協力を賜りますようお願いい  
申し上げます。

### 2025年度の 総会が開催されました

2025年5月22日、多摩都市構想研  
究会の2025年度総会が立川中央病院に  
て開催されました。

開会前に、いつも会場を提供くださって  
いる立川中央病院木村政人理事長からご挨拶があり、立川・多摩地域の発展のため、  
当研究会が益々、活発な活動をするこ  
を期待しているとの挨拶がありました。

総会では、櫻井会長の挨拶のあと、渋井  
副会長が議長に指名され議案審議に入りま  
した。

議事では、2024年度の事業報告およ  
び決算が承認され、あわせて2025年度  
の事業計画と活動予算案も了承されました。  
また、役員人事として、2名の現監事に  
加え、新たに石川貴久氏が監事に推薦提案  
され全会一致で承認されました。

2025年度の重点事業としては、「西  
多摩地域を応援しよう」というテーマのも  
と、西多摩地域展（仮称）や地域振興を目  
的としたシンポジウムの開催が計画されて  
います。

檜原村や奥多摩町では、著しい人口減少  
により、かつて一部の報道で消滅可能性都  
市として危惧されていきました。例えば、檜  
原村は林業最盛期の昭和22年に、6千人  
が、現在1,9千人台と激減しています。

この西多摩地域は、東京の空気や水を支  
え、東京の奥座敷と言われる風向明媚な観  
光地でもあります。永い歴史の中で人々が  
暮らしています。現在、この両町村では若  
年層の定住促進や特産品の開発などの真剣  
な取組がされています。当会はこうした両  
町村の現状や取組、見どころを紹介し、西  
多摩地域を応援していきます。

さらに、地域公共交通のあり方を探る取  
り組みとして、栃木県宇都宮市における交  
通システムの視察も実施する予定です。

また、総会終了後、当会副会長・（公財）  
小笠原協会会長渋井信和氏による『陛下の  
平和旅』の講演がありました。（後日掲載）



## 武蔵村山市の

### 「多摩都市モノレール沿線

#### まちづくり方針」

武蔵村山市は、令和7年3月に「多摩都市モノレール沿線まちづくり方針」を公表。

これは、延伸計画（上北台―箱根ヶ崎）の続きが開始され、駅の整備予定位置などが公表されたことを受けたものです。

延伸計画は、上北台から箱根ヶ崎まで7キロ、7駅を配置することから、駅間を計算すると1.17キロ程度。モノレールは軌道法に基づくため、新青梅街道の拡張が前提になりますが、概ね50%程度の用地が確保されたと言われており、2030年代半ばの開業予定とされています。

武蔵村山市の人口は、近年減少傾向（本年5月1日現在69,428人）にあります。また、人口問題研究所は、同市の人口が2060年度には、5万6千人程度になると予想していますが、同市はモノレールの延伸効果で85千人と現在よりほぼ1万5千人増、研究所の予想より3万人増の目標を立てています。

（多摩都市モノレール導入効果の一考察）  
当会の自主研究（ホームページ掲載済）

として、1995年と2020年のモノレール沿線市の人口比較がありますが、夜間人口は、1.39倍、昼間人口も1.14

倍になっていました。如何に多摩モノレールが人口増加に寄与したかが分かります。

## 多摩モノレールの延伸計画



（指針への市民の意見）

市民から寄せられた声の上位三位は、

- ① 快適に移動できるまち
- ② 公共利便施設の集積による暮らしやすいまち
- ③ 自然を活かし自然とふれあうまちでした。

（今後の展望）

武蔵村山市のほか、東大和市、多摩市、町田市も「沿線まちづくり構想」を策定し始めています。

多摩地域の交通のネックは、南北です。かつて東京及び周辺県の発展の基盤となったのは、甲武鉄道（現JR中央線）や小田急線、京王線、西武線です。すべての路線が東西に走り、23区への輸送路です。しかも、すべて100年以上前に開設されています。安価な荒野に線路を通し、当時は周辺地域の開発収益を見込みました。

これからの多摩地域の持続的発展には、この地域の中を横断的に活性化し、400万を超える市民の願う利便性や暮らしやすさ、ふれあいです。100年前に何もないとくに敷設された各線と、すでに一定の開発が済んだ多摩の南北を繋ぐ路線とでは事情が異なります。歴史的視野を持ち、多摩地域の持続的発展と、多摩地域都民のための交通インフラの整備に、再度目を向ける必要があります。左は多摩の全長93kmに及ぶ「8の字状のモノレール構想」です。

